



第7回ふれあい人権講座

ドキュメンタリー映画を

鑑賞しました。

「荒野に希望の灯をともし」

～ 医師・中村哲

現地活動35年の軌跡～

12月期は、アフガニスタンとパキスタンで35年間にわたり医療活動や飢きん対策のための用水路建設に尽力され、2019年12月、何者かの銃撃により他界された中村哲医師の足跡を追うドキュメンタリー映画を参加者の皆さまと視聴しました。

30歳代で彼の地の山岳地帯の無医村でハンセン病患者の苦しみに向き合ったことをきっかけに、日本や現地のスタッフの協力、日本の心ある多くの方からの寄付に



語りかける在りし日の中村哲医師。言葉を裏切らない実践が、人々の心を動かし、不可能と思われた事業を完成させました。

よって医療体制の充実を進められました。しかし、道筋がつこうとする頃、現地を干ばつが襲い、農業による自給自足が生活の基本である国は、食糧不足に陥りました。飢餓が人々、特に子どもや高齢者の生命を次々と奪っていくさまを目の当たりにした中村医師は、医療を後進の現地スタッフに任せ、自らは灌漑水路の建設を目指します。まず食物の確保が人命にとつて医療より先にある、という決意です。たった一人の外国人医師が十数キロにわたる水路新設工事を提案します。誰もが耳を疑うような話ですが、中村医師の力強



現地での追悼。武器によらない平和を願った方が、銃弾に倒れる不条理を、どう捉えたらよいのか。

く優しい言葉、強く真つ直ぐな眼差しが人々の心を動かし、人力による気の遠くなるような作業が始まりました。その後、幾多の壁を乗り越え用水路は完成し、荒野野になつていた大地は緑を取り戻しました。麦が実り、水路で遊ぶ子どもたちの歓声が響きます。ところが、中村医師は突然の凶弾に倒れ、それに合わせるように、今、政治的混乱は深まり、再び干ばつが襲っています…。今の私たち日本人には到底信じられないような偉業に圧倒されます。私たちは、SDGs（持続可能な開発目標）を語ってはいけません。でも理念の核心と具現化は中村医師

師のなされたことそのもののように思えます。

映画の中で、その時点、時点で中村医師が書き遺した文章が朗読されます。机上の空論でなく現場と向かい合い、苦悩しながら思索され、導かれた哲学は、自然に生かされているささやかな私たちの営みを、人がどのように考え支えていけるのかを深く問いかけてきます。今後、よりたくさんの方に観ていただける機会を作ろうと考えています。その折には、ぜひご来場ください。

【次回予告】

■日時 1月18日(火) 午後2時～3時30分

■会場 日南町人権センター

■テーマ

「女性の人権を巡る 歴史(仮題)」

1月の人権相談・行政相談

■日時 1月14日(金) 午前9時～12時

■会場 子育て支援センター

★同日午後、弁護士無料相談もあります。こちらは人権センターにお電話でご予約ください。

